

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200620		
法人名	社会福祉法人むべの里		
事業所名	グループホーム厚南		
所在地	宇部市黒石北4丁目5番39号		
自己評価作成日	平成28年11月24日	評価結果市町受理日	平成29年5月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人担当があり、個別対応に努め、出来ることを見守り、出来ることを少しでも長く継続できるように支援している。
看取りの経験もし、ご家族の協力を得ながら、最後まで馴染みの環境の中で過ごしていただくよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が自治会に加入されており、職員が地域行事の草刈に参加されたり、地域の運動会に利用者と職員と一緒に参加されるなど地域との交流に取り組んでおられます。法人の行事は回覧版をとおして地域住民に周知されており、法人の併設施設で開催している5月祭や餅つき大会には、地域の子どもから大人まで多くの参加者があり交流しておられます。法人の併設施設の行事に利用者と職員と一緒に参加される中で、「いきいきサロン」メンバーによるボランティアの来訪につなげられたり、近隣の飲食店の利用をとおして、従業員との交流が始められるなど、利用者が地域住民と身近に交流ができる場づくりに取り組んでおられます。事業所では家族との話し合いの中で事業所理念をつくられ、家族は運営推進会議への参加や毎月の家族交流会をとおして、事業所の活動を把握され、年末の大掃除に協力されるなど、家族と一緒にあって利用者を支えられるように取り組んでおられます。職員は「働き方の指針及び接遇の指針」を基に研修をされ、利用者一人ひとりの人格を尊重され、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご家族にも伝え、全職員と共に考え、実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を利用者家族と一緒に作り、事業所内に掲示している。会議やケアカンファレンス時に利用者にとって安心のある暮らしになっているかを話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会、月1回の高校生を招いての園芸教室参加。併設のデイサービスでの敬老会や催しに参加して地域とのつながり続けられるよう努めている、。	法人が自治会に加入し、総会には法人職員が参加している。職員は地域の草刈作業に参加し、利用者は地域の運動会に参加して地域の人と交流している。法人の拠点施設開催の5月祭や餅つき大会には地域から大勢の参加があり、利用者も参加して楽しみながら交流している。事業所に来訪しているボランティア(隔月のお茶会、掃除)の人や併設のデイサービスセンターの行事の園芸教室(高校生指導による)や敬老会に参加して馴染みの友人や地域の人と交流している。近隣の人とは散歩時に挨拶を交わし、近隣の飲食店を利用したことから店員と利用者が顔なじみとなり、交流が始まるなど、利用者が地域住民と身近に交流できる場づくりに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	努力中、認知症サポート養成講座時の見学場所提供。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	研修を行いたいと課題に掲げ、月1回は施設全体での働き方の指針。接遇指針の研修に参加している。	管理者は職員に評価の意義を説明し、月1回の会議の中で全職員で話し合い、管理者がまとめている。職員は自己評価を、ケアの振り返りと捉えている。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を立てて取組み、毎月、内部研修の実施や地域とのつきあいとして近隣の飲食店員との交流を始めるなど、具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様のご家族にも報告し、意見も取り入れてサービスの向上に努めている。	会議は年6回開催し、利用者の状況や活動状況、事故、ヒヤリハット報告、外部評価結果報告を行った後、話し合いをしている。昼食会や家族交流会と同日に行うなどの工夫をして、家族の参加者が多い(毎回3人から9人)が、地域からの参加者は少ない。参加者からは、駐車場確保や玄関前にスロープを設置してほしいなどの意見があり、本部へ上申している。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、運営推進会議時に話あっている他、直接出向いて相談したりしている。	市担当者とは、運営推進会議時の他、電話や直接出向いて、情報交換や法的解釈、事例相談を行い、助言を得るなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、接出向いて情報交換や事例相談を行い連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は玄関の施錠、併設施設との行き来も可能。身体拘束に何が当たるのかを職員全員で理解し抑制や拘束を市内介護に努めている。	職員はマニュアルを基に法人研修や内部研修で学び、身体拘束防止のチェックリストを活用して身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者があれば一緒に出かけるなど拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、気がついた時には職員がお互いに注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は接遇指針の研修中でも必ず学び、防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修は今後していく予定		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と入居者様のご家族の不安や疑問点その都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見を反映するように努めている。	苦情申し立て窓口、担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理手続きを定めて、契約時に家族に説明している。面会時や運営推進会議参加時、家族交流会時、行事参加時、電話等で家族の意見や要望を聞いている。毎月、利用者を担当している職員から利用者の暮らしの様子を事業所便りと一緒に送付して、家族が意見を言いやすいように工夫している。苦情や意見があれば記録して共有している。家族からは面会者の面会簿を整備するよう提案があり、運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談以外にも、職員の意見を聞き機会を設けている。	月1回のグループホーム会議や年4回ある個人面接時、業務を通して直接職員の意見や提案を聞いている他、いつでも意見が言いやすいように雰囲気づくりに努めている。職員からは、夜間の勤務時の緊急連絡対応として電話の子機使用についての意見があり、法人管理者会議に提案している。意見や提案は週1回開催している法人管理者会議で提案するシステムになっている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談を行い、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員に情報を伝え、希望に応じて受講の機会を提供している。法人内の研修は参加出来ている。	外部研修は、職員に情報を伝え、職員の希望や段階に応じて受講の機会を提供している。受講後は復命、伝達して全職員で共有している。法人研修は、本部主催で年2回実施(虐待防止、身体拘束、交通安全)している他、拠点施設では毎月実施(接遇、言葉づかい、働き方の指針、ケア内容)し、職員は参加している。内部研修は、看取りのケアや観察の方法と要点、法人研修の伝達、日々の介護実践の中で疑問や不安が生じた内容をテーマにして、管理者や先輩職員が指導者を務めて実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	、こうr時間がなかなか取れず交流する機会を工夫していきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人一人の状況に応じた、対応に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	なかなかご家族の本音を聞くことは難しいが、関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人一人の状況に応じた、対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意な事を見つけて職員と共に過ごしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が職員に介護をゆだねているというところもある。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の来訪がある。暑中見舞いや年賀状を送る。ドライブや買い物時に以前暮らしていた所に出かけるなどの支援をしている。	家族(子ども、孫、ひ孫)の面会や親戚の人、趣味仲間、近所の人の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。実家の付近へのドライブや馴染みの店での食事に出かけている他、家族の協力を得て一時帰宅や外泊、法事への参加、寺参り、墓参りなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えを実施し、気の合う方や入居者同士が関わり合えるように支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アンケートや、日常の関わりの中での入居者の行動や会話の内容を市系列の介護記録に記録し、その中から本人の思いや意向を把握して、本人本位に努めている。	入居時に本人に対してアンケートを実施し、暮らし方、長年馴染んだ習慣、好み、願いや支援して欲しいことなどを聞いて、アセスメントシートに記録している。日々の関わりの中で、利用者の暮らし方の希望を聞き、言葉や行動を細かく、具体的に記録して思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に聞き、少しずつ努力をしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症症状が進みつつある方もおられるが、出来ることを見つめる努力をしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの意見はなかなか聞けないが、随時職員同士話し合っている。カンファレンスやアセスメントを行い介護計画に反映させている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって月1回、ケアカンファレンスを行い、本人や家族の思い、主治医等関係者の意見を参考にして職員間で話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリングを実施し、6カ月毎に計画を見直している。本人の状態や家族の要望に変化が生じた場合はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の情報共有をしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時職員同士話し合い、柔軟な支援に努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所への挨拶、声掛けを行なっている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医として受診の支援をしている。月2回の訪問診療がある。希望に応じて皮膚科や歯科の訪問診療も受かることができる。	本人、家族の希望するかかりつけ医であり、他科受診も含めて家族の協力を得て受診支援をしている。協力医療機関は月2回の訪問診療がある。皮膚科と歯科も必要に応じて訪問診療を受けることができる。受診結果は診療記録に記録し、家族には電話で連絡をして共有している。協力医療機関の看護職員が月2回、健康観察を実施し、緊急時の対応を行い、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週で訪問していただき、連携をとっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における対応にかかる指針」を基に、事業所で出来る対応についての説明をしている。今年度は看取りを実際に実施した。	重要事項説明書の中に「重度化した場合における対応に係る指針」を記録し、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族と相談し、主治医や看護師等関係者の意見を参考にして、方針を決めてチームで支援に取り組んでいる。利用者や家族の意向で看取り介護を実施している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	発生の都度、ヒヤリハット・事故報告書にその日の出勤者で話会って記録し、全職員に回覧している。	発生時にはヒヤリハット・事故報告書に発見者が場所、状況、予防策を記録し、全職員に回覧して周知し、月1回あるグループホーム会議で再度、検討してひとり一人の事故防止に取り組んでいる。消防署主催の救急救命法やAEDの使用法の研修を受講し、事故防止のための方法を習得しているが、全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとは言えない。	・すべての職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の消防署の協力を得ての併設施設との合同の総合訓練に参加している。年1回事業所での夜間想定避難訓練実施、一人勤務時でも対応できるように、イメージトレーニングはしている。	年1回、消防署の協力を得て併設施設と合同で昼間の火災を想定した総合訓練に参加している他、事業所として年1回、夜間の火災を想定した通報訓練、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方を利用者も参加して実施している。職員は日頃から1人勤務時でも対応できるようにイメージトレーニングをしている。非常用食品は準備している。運営推進会議の中で災害時の協力体制や訓練への参加を呼びかけているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	働き高の指針や接遇指針の学習会を実施し、入居者一人一人の自尊心を気づけず、プライバシーを損ねない声かけや対応をしている。	「働き方の指針及び接遇の指針」を基に研修を行い、職員は利用者一人ひとりの自尊心を傷つけずプライバシーを損ねない言葉づかいや対応をしている。個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務は遵守している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に表情をみた把握に努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われるのではなく、入居者を中心に支援するように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望をうかがいながらも、季節を意識しての装いを支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は手作り、みそ汁の具は入居者が切って下さる。法人からの配食は盛り付け、お茶くみ、配膳、下膳、後片付けなど会話を楽しみながら行っているなど、出来ることを職員と共に行っている。	法人からの配食を利用している。朝食と週1回の夕食は利用者の好みを聞いて献立を立て、新鮮な食材を使って事業所で調理している。食べやすいように、形状の工夫をしている。利用者は、野菜を切る、ご飯を炊く、混ぜる、ご飯をよそう、箸を並べる、食事のあいさつ、食器を洗う、食器を拭くなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は一緒にテーブルを囲み、食材の作り方や好きな献立などの話題に会話を弾ませながら食事をしている。検食を通して味付けや堅さ、量についての意見を法人の厨房へ連絡している。ケーキをつける誕生日食や月2回の外食、季節の行事食(ちらし寿司、ソーメン流し、白玉団子、餅つき)など、食事を楽しむ支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状況に応じた、対応に努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、時間を見計りながら、入居者一人一人に応じた声かけや誘導でトイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	職員は排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、利用者一人一人に応じた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の状況に応じた、対応に努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	14時から毎日入浴している。入居者の状態によりシャワー浴や清拭などの対応をしている。	入浴は毎日、14時から16時までの間可能で、順番や湯加減、歌を歌う、昔話をするなど、利用者一人一人に応じた対応をしてゆったりとくつろいだ入浴となるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、待ったり、時間を変える、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて、シャワー浴や清拭、部分浴等、個々の状態に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の状況に応じた、対応に努めている。毎日の名前・生年月日・今日の日付書き、日記、パズル、歌を歌う、風船バレー、本を見る等したいこと好きな事を見つけ、楽しみごと日々の生活の張り合いとなるように支援している。	モップ掛け、箒で掃く、カーテンを開ける、カーテンを閉める、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物を居室に持ち帰る、シーツを外す、シーツをかける、布団カバーを外す、野菜を切る、ご飯を炊く、混ぜる、ご飯をよそう、箸を並べる、食事のあいさつ、食器を洗う、食器を拭く、花瓶の水換え、花を生ける、草を引く、テレビやDVDの視聴、新聞や雑誌、広告を読む、音楽を聴く、歌を歌う、ぬり絵、しりとり、なぞなぞ、散歩、ラジオ体操など、利用者の喜びや張り合いとなる場面を多くつくり、楽しみごとや気分転換等の支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺の散歩や買い物、ドライブ、夕食等の支援。ご家族の協力を得ての受診、外出、法事への出席、墓参り等、出来るだけ戸外に出られるように支援している。	周辺の散歩や買物、季節の花見(桜、バラ)、ドライブ(馴染みの場所、自宅周辺)、初詣、夕食に出かける他、家族の協力を得て、買物、夕食、一時帰宅、法事に参加、墓参、寺参りなど、一人ひとりの希望に応じて出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを送る。電話連絡をして出来るだけの支援に努めている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度・湿度や明るさ、音・換気にも配慮している。席替えも実施し居心地良く過ごせるよう工夫している。	共用の居間は自然光で明るく、ガラス窓から街並みの景色が見える。室内には机と椅子、ソファがゆったりと配置しており、利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。壁面には時計やカレンダー、利用者の活動写真が飾っており、温度、湿度、換気、音に配慮して、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	希望をうかがいながら、工夫しているところ。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒・イス・装飾品・家族の写真等使い慣れたものや好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫している。	ベッド、机、椅子、テレビ、筆筒、洋服掛けスタンド、衣装ケース、時計、温度計、化粧品、はさみなど、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、カレンダーや飾り花を飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状況に応じた環境作りに努めている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム厚南

作成日: 平成 29 年 5 月 1 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	自主的な研修参加が少ない。	事業所内での研修を毎月行なう。	担当制にして毎月の会議で担当が行う。 むべの里5グループでの研修を実施する。	2年
2	2	地域との付き合いの検討	地域との協力体制の構築	グループホーム・入居者様・職員を知っていただけるよう、どんどん地域に出かけるようにする。	
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。